梅花中学・高等学校

学校経営推進費　評価報告書（最終）

標記について、下記のとおり提出します。

１．事業計画の概要

実施課程名	全日制の課程
取り組む課題	英語教育の充実
評価指標	・年度内に２度実施する生徒対象学校評価アンケートにおける満足度の向上 ・英語検定の評価（準２級の合格率）の向上
計画名	「英語の梅花」学力向上プロジェクト

２．事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の中期的目標	1　英語教育力の向上 ・学習指導要領第２章第８節目標を達成する為に音声指導にも有効であるICT機器（電子黒板）を整備する。 ・英語教員のスキルアップのためにベルリッツ・ジャパンと教育連携を結び、電子黒板を用いた授業のコンテンツや教授法の研究を行う。 ・全校生徒の希望者（初年度は高１のみ）を対象に実施する特別講座に積極的に教員自身も参加することにより先進的でインタラクティブな欧米式の教授法習得をめざす。 ・上記で習得した電子黒板と教授法を用いた研究授業を積極的に実施し、通常の授業にフィードバックさせる。
事業目標	「英語教授法の改善」のためにICT（電子黒板）を積極的に活用し、英語の４技能の学力向上をめざす。同時にベルリッツ・ジャパンの教授法を教員が習得することにより生徒の授業満足度と英語力の向上をめざす。 ＜数値目標＞（目安として高校１年生を対象とする） ・受講生に対し満足度調査を実施し、「先生の授業は内容も適当でわかりやすい」「資料や映像を使って興味がわくような工夫をしている」の指標3.4ptをめざす。（満点4.0pt） ・2016年1月実施の英語検定準２級を受験者の25%（国際コースは50%）の合格をめざす。以降は単年度ごとに５%上昇させ、２年後には35%（国際コースは60%）を達成する。 ・３年目以降はそれぞれ40%、70%以上の合格をめざす。
整備した設備・物品	電子黒板機能付プロジェクター（超短焦点）９台、ベルリッツ・ジャパンとの教育連携に対する講師派遣料、ホワイトボード
取組みの主担・実施者	六室匡司（副校長）
本年度の取組内容	本件の学校経営推進費により電子黒板機能付プロジェクター（以下電子黒板）を設置した初年度の９教室に加え、昨年度は文部科学省の「私立高等学校等IT教育設備整備推進事業費」の補助により12教室に電子黒板の追加設置を行った。さらに今年度はこれまで設置されていなかった教室にも設置したことにより全ホームルーム教室と特別教室のほぼ全てに電子黒板を設置するに至った。設置する過程において各教科のICT教育推進委員会のメンバーを中心に教科ごとに使用法のレクチャーを行った。２学期に実施した教員対象アンケート内の使用頻度についての問に対し「ほぼ毎時間使用している」「時々使用している」に回答した教員が60%を超えていた。要望欄には「パソコンとのケーブルを各教室に常備して欲しい」「研修会をさらに充実させて欲しい」などの前向きな意見が多かった。ベルリッツ・ジャパンとの連携では国際コースで実施しているイングリッシュキャンプをはじめ放課後に英会話講座（Brush Up English Program）を実施した。導入３年目の今年度は年度当初より習熟度別にクラスを編成した。
成果の検証方法と評価指標	「Brush up English Program」についてはアンケートを実施し、その結果を検証し、次年度のクラス分けやテキスト選定の材料にする。また、英語検定準２級の合格者を評価指標として採用し、合格率アップにつなげていく。電子黒板については年齢や性別に関係なく専任の全教職員が一定の操作方法を習得することにより生徒への教育サービスの均等化をはかる。
自己評価	ICT教育を推進することを決定した当初の目的である「電子黒板を可能な限り早急に全ホームルームに設置する。」という目的を達成することが出来た（◎）。それにより使用したい時にいつでも使用できるという環境が整い、教科主催の研修会を実施したことにより使用頻度も飛躍的に向上した（◎）。その結果11月に実施したアンケートでも有効利用するための提案や要望が多数寄せられた。また電子黒板をアクティブラーニングに利用する教員も増え、プレゼンテーションの授業にも利用されている（◎）。授業アンケートにおいても「資料や映像などを使って興味がわくような工夫をしている」の項目の結果がこの３年間で向上している（○）「Brush up English Program」については昨年度の反省を生かして習熟度別クラス編成に変更した。一定の評価は得られたものの一部問題点も有り次年度は英検対策講座に内容を変更する予定（○）。数値目標としていた英語検定の準２級取得については今年度より英語検定を全員受検することになったので昨年度の結果と単純には比較できないが今年度受験した生徒に限って言えば101名が合格している。また２級39名、準１級４名の合格者があった（◎）。
事業のまとめ	今年度に全ホームルーム教室に電子黒板が設置されたことにより教員の使用頻度が飛躍的に向上し、それぞれが工夫した教材を作成するようになった。ベテラン教員から若手教員まで、さらに非常勤講師の先生を含む利用率も高く11月に実施したアンケートでも現場から多くの要望が寄せられるほど電子黒板に対する理解が広がっている。新規採用の教員から利用法に対する研修の要望があった際も各教科のICT教育推進委員が中心となりレクチャーが行われた。今年度より英語検定が全員受検になり、学校全体が英語検定に取り組むようになったので今後さらなる電子黒板の利用頻度の拡大と授業内容の充実が期待できる。次に取り組むべき課題としては「使えるようになる」の段階から「使いこなす」のレベルに到達するためにICT教育推進委員を中心として学外で行われている研修などにも積極的に参加することにより教員のスキルアップが望まれる。